令和７年２月１９日

令和６年度　学校関係者評価委員会　報告書

学校関係者評価委員会　委員長　武井　宗義

令和６年度の学校関係者評価の結果、以下のとおり報告いたします。

１　評価方法について

本校では、令和６年度の教育調査（保護者）と学校アンケート（生徒・保護者）の結果を肯定率で分析しました。特に肯定率が上昇、下降した項目について検討し、今後の対策を協議、評価しました。

令和６年　杉並区教育調査結果（保護者）　前年度との比較	↑上昇	↓下降
質問項目	R5(%)	R6(%)
子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている	54.5	53.3
子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている	67.2	62.9
子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる	44.0	45.7
学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している	48.1	49.5
連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている	33.3	42.9
子どもは、児童・生徒１人１台専用のタブレット端末や学習ｅポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している	64.5	65.7
学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている	36.0	37.1
学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある	30.0	32.4
学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している	58.7	66.7
学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている	88.4	91.4
学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている	43.9	45.7
子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている	30.2	41.9
学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている	25.4	21.9
子どもは、学校生活を楽しんでいる	65.6	68.6
回答率	44.0	23.3

学校アンケート（生徒・保護者）前年度との比較

		↑上昇	↓下降		
	質問項目	R5 生徒	R6 生徒	R5 保護者	R6 保護者
学校生活	学校生活は楽しい。	81.5	88.0	74.5	88.8
教育目標	教育目標（ゆたかな人・ねばり強い人・たくましい人・よく考える人）について、目標として考えたり、実行しようとしたりしている。	72.4	73.3	60.9	73.0
重点目標	夢の実現のために、自分で考え、行動し、実行している。	76.2	80.3	47.4	52.0
ゆたかな人	学校行事や生徒過活動などを積極的に取り組んでいる。	80.1	80.3	66.1	83.0
	安心・安全な学校生活を送ることが出来ている。	85.6	89.3	72.9	83.0
	アンネのバラの歴史や道徳の授業を通して、命の大切さを学んだ。		82.7		63.0
ねばり強い人	友達との違いを認め、みんなと一緒に活動できる配慮や工夫をしている。		87.7		77.0
	授業で分かることやできることが増え、主体的に学んでいる。	79.2	85.0	53.1	62.0
	地域調べ、職業調べ、職場体験、上級学校訪問、進路学習、キャリアガイダンスなどは、自分の生き方や将来を考えるのに役立っている。	78.6	80.0	76.0	70.0
たくましい人	授業などでは、体力や食育、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	83.6	84.3	74.5	75.0
	新型コロナウイルス感染拡大防止を講じたうえで教育活動が行われている。	77.4	66.7	65.1	57.0
	部活動は、実技や人間関係を学び、自分の成長に役立っている。	79.2	84.7	67.7	68.0
よく考える人	授業では、自分の得意のところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	68.0	73.3	40.6	63.0
	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	84.2	81.7	75.0	
	授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している	78.6	88.3	62.5	75.0
	地域学習や SDGs の学習に取り組んでいる。	69.5	68.3	52.1	52.0
	学校図書館や高井戸図書館を利用している。		61.7		50.0
地域とともにある学校	地域の行事やボランティア活動に参加している。	47.5	44.3	46.4	31.0

２　学校関係者評価委員会としての総合所見

【成果】

学校生活が楽しいと感じている生徒･保護者が増加していることは、コロナ禍を経て、学校の様々な教育活動が充実してきていることが分かる。引き続き生徒主体の学校運営に取り組み、生徒が自ら考え、判断し、行動する経験をたくさん積ませてほしい。

小中一貫教育に関する項目が増加しているのは、学校説明会、高中まつりなど、小学生と関わる機会を広げていることの成果と言える。他校の様々な事例を収集し、小中の認識の差が埋まるよう、中学校の先生たちが小学校の実情等を知る機会を設けられるとよい。

ＩＣＴ活用やデジタル化が進んでいることが分かる。その一方で、タブレットＰＣを遊びに使用している生徒の話や、スマートフォンやＳＮＳの利用に関するトラブルの話も聞く。学校としては情報モラルに関する取組等を引き続き行うとともに、家庭の協力を仰ぎながら対応していく必要があると言える。

【課題】

地域行事やボランティアに関する項目の低さが目に付く。学校支援本部としても分かりやすくお知らせしてきたつもりだが、今後はさらに早めにお知らせしたり、年間の予定等を作成したりするなど、生徒が見通しをもてるようにしていきたい。地域行事やボランティアに参加した生徒たちは達成感や充実感が得られ、大きく成長している様子が伺えるので、朝礼での活動報告は来年度も継続して、上級生の様子を見て下級生が取り組みたいと思えるような場面を引き続き設定してほしい。

学校支援本部で行っている要学習支援の生徒への放課後の学習支援を充実させる必要性があると感じている。学習の遅れから学習意欲が下がり、授業に出るのがつらい、教室にいづらいということになるのは、何としても避けなければいけないことである。学校の様々な取組とうまく連携できるよう、担当間の調整を行い、工夫していってほしい。

新型コロナウイルスに関する項目は感染症上の分類が５類になったこともあるので、質問項目から外してもよいと思われる。

保護者の回答率の低さが気がかりである。学校への信頼感がある程度はあるのかもしれないが、幅広く声を聞く必要があるので、回答率を上げるため何らかの取組を学校として考えるべきである。